

## 肝炎医療コーディネーターが使いやすい問診票作成について

分担研究者：前城達次 琉球大学医学部附属病院第一内科 特命講師

研究要旨：肝疾患患者には、その原因や病態の違いから様々な問題点や症状の違いがある。肝炎医療コーディネーターがそれらを的確に把握するための問診票作成を目的とし、今年度で問診票を作成した。肝炎医療コーディネーターにも複数の職種があり、今回は専門医療機関の外来にて使用できる問診票を作成し沖縄県の肝炎医療コーディネーターで使用、その使いやすさを評価する。

### A. 研究目的

肝臓病患者さんには肝炎ウイルス感染や自己免疫性肝疾患、アルコール性肝疾患を含む生活習慣関連肝疾患など多くの原因があり、かつそれぞれにおいて非活動性肝炎状態から、慢性肝炎状態、肝硬変、肝がんなど多くの病態がある。

従って肝臓病患者さんと言っても様々な症状を有している可能性が高く、これらの症状を患者さん毎に、細かく把握することが今後の診療に重要となる。また、病院で活動する肝炎医療コーディネーター(肝炎 Co.)だけではなく、各地域で保健師として活動する肝炎 Co.に対しても、対象者の状態をよりの確に把握し受検から受診を勧めることに寄与すると考えられる。

それにあたり、肝炎 Co.が使用しやすく、また情報を的確に得やすい問診票を作成することを目的とした。特に沖縄県はアルコール性肝疾患も多い地域であり、患者さんの背景や自覚症状に関して多くの違いがあることが予想される。そのような状況で、より効果的な問診票を作成できれば広く使用される可能性も期待できる。

### B. 研究方法

沖縄本島内だけでなく、各離島で活動する肝炎 Co. から意見を聴取しながら問診票案を作成することを念頭に計画した。

### C. 研究結果

平成 30 年 1 月初旬に問診票案のたたき台を作成し、平成 30 年 2 月 8 日及び平成 30 年 7 月 19 日の沖縄県肝炎医療コーディネーターミーティングにて提案し意見を聴取した。その中で保健師など地域の肝炎 Co. は転勤や配置転換があり、肝炎 Co.としての活動が継続できない場合が多く、問診票作成に責任を持って対応できないことが意見された。従って今回は継続的に活動できる専門医療機関の肝炎 Co.が使用する問診票として作成、現在試用中である。

### D. 考察

前年度の問診票案ではウイルス感染を念頭にした感染原因推定のために問診や生活習慣に関連した問診内容など項目が多すぎるとの意見も頂きできるだけシンプルに作成し、最低限の問診のみで、結果的に肝炎 Co.が使用しやすいと思われる形式で作成した。

### E. 結論

現在専門医療機関で試用中で来年度で評価を行う予定である。

### F. 健康危険情報 なし

G . 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H . 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他